

第2回

「生涯学習社会と楽しいまちづくり、 生活づくりのヒント」

令和5年10月21日(土)

講師：立正大学 社会福祉学部 教授 おおひら 大平 しげる 滋 氏

日本は産業が盛んで経済は右肩上がりだったが、1990年にバブル経済が弾け、繊維や家電産業の海外進出失敗もあり経済が落ち込んだ。派遣制度の拡大から非正規雇用の若者増加で結婚する人が減る一方、寿命が延びて少子高齢化が進み、人口動態の変化と人口減少で新規投資が難しくなった。モールが栄える一方、町が衰退している。今後の人生100年時代を想定したまちづくり、生活づくりのヒントが示された。則ち、生涯学習の活用を通じて共同社会再生と地域循環型経済への転換と心の満足や社会交流欲を満たす成熟社会を目指そう。まちづくりでは閉店施設の活用や農業の6次化が、生活づくりでは生涯現役、ゆる企業や交流の場作りが示された。

質疑応答で出た生活支援のボランティア事業については、生涯学習の範疇に入るとの見解がありました。

(文責 川合将義)



○参加者の感想・意見について（主なもの）

- ・昭和の文化も重要かと思います。集まる場所の重要性、社会的インフラ、役割を果たすお手伝いが仕事になっていることに感謝。生活のはげみとなります。
主張したいことをいくつか絞って、詳しく意見を聞きたい。
- ・高齢者になると人との関わりが薄くなるので、スポーツや趣味の仲間を作ることが良い人生を歩んでいくためには必要だと思います。（さまざまな無形資産・社会的インフラ）
- ・地域の活性化・町づくりについて参考になった。ゆる企業はまさしく今の自分である。人口減少（特に20～40代）にはびっくりした。現象を少なくする為には何が必要なのか？